



1月号 令和4年1月11日発行

荏田小だより

横浜市都筑区荏田南町694番地 [TEL911-0149]



IT化時代の今だからこそ大切にしたいこと ～待つこと～

校長 伊藤 智樹

新年明けましておめでとうございます。検温や体調管理などに日々ご協力くださった保護者の皆様には心より感謝申し上げます。新型コロナ感染症の終息の見通しがなかなかもてない中ですが、ガイドラインに基づいた感染症対策を取りながら教育活動は継続していきたいと考えています。

今年一年が皆様にとりまして、充実した年となりますようお祈り申し上げます。

本校にGIGA端末が整備され8か月になりました。その間分散登校期間中のロイロノートを活用したオンライン学習や日々の学習活動の中でもGIGA端末が学習道具として日常的に使われるようになりました。社会科などの調べ学習でも検索機能を使えば瞬時に知識を得ることができます。また子どもたちの会話の中でも「YouTube」「LINE」「メール」「オンラインゲーム」という言葉が学年を問わず使われています。

2年生の国語の教科書に「お手紙」という物語が掲載されています。概要は以下のようなものです。

お手紙を待っているのに誰もくれずに郵便受けが毎日空っぽで悲しんでいる「がまくん」。その「がまくん」に「かえるくん」はお手紙を書き「かたつむりくん」に手紙を託すことに。手紙の内容を届く前に「がまくん」に教えた「かえるくん」。2人で4日間幸せな気持ちで待っていました。



もしこの手紙を「かたつむりくん」ではなく「ウサギさん」だったらもっと早く届いていて4日間感じた幸せな気持ちはどうなったのか、もし電子メールやLINEだったらこの幸せはそもそも感じたのだろうかと思ったり授業の様子を見ながら考えたことがあります。

「待つこと」は、大切なことですが、難しいこともあります。「待つこと」には自分の意思のみならず相手の意思や自然の成り行きに関係するので自分の感情をコントロールする必要があります。相手に対して疑念や不信感を抱くと「待つこと」が「苛立ち」になります。「待つ」ために必要なのは「相手への信頼と待つことの意味の理解」です。

学校現場もGIGA端末、通信環境の整備により知識の取得や情報共有に関しては格段に進歩しました。効率の良さを追求していくことも必要なことの一つです。その反面端末操作そのものが単なる瞬時の「知識の検索」になっていないか、「単なる知識」で終わっていないか、その知識の背景にある「人の営みや知恵」まで想像しているのだろうかと思ったり最近感じることもあります。上記の「お手紙」に登場する「がまくん、かえるくん」そして手紙を届ける「かたつむりくん」のように子どもたちは幸せを実感できているのだろうか。

考えたり試行錯誤したりしている子どもたちを私たち教師が「待つこと」ができなければ、子どもたちの力を伸ばすことは難しいです。私たち教師は、どんな力をつけたいのか見通しをもって、子どもたちの成長を考えていなければ、「待つこと」はできません。



コロナ禍で教育活動が制限されている中ではありますが、学校や家庭、地域や社会でそれぞれが互いに連携し合いながら「子どもたちの成長」を支えていきたいと思っています。

今年も地域と共に歩み、保護者・地域の皆様から信頼される学校を目指し、教職員一丸となって努力を積み重ねて参ります。昨年同様、温かいご支援ご協力をよろしくお願いいたします。